

下水道施設 のご紹介

久留米市では、昭和42年から下水道事業に着手し、中央浄化センター・南部浄化センター・田主丸浄化センターと、順次終末処理場が運転開始されると共に、下水道に接続することでより衛生的で快適な生活環境となり、下水道人口普及率は、平成25年度末で74.4%となりました。

市民生活には欠かせない重要なライフラインのひとつである、下水道の施設と下水道の仕組みについて見てみましょう。
家庭などから出た排水はどこへ行くのでしょうか。住んでいる場所によって処理する施設が違い、地域毎に色分けをしています。



●中央浄化センター(津福本町)

(旧)久留米地区のマンホール
くろめつつじ・耳納連山・筑後川のデザインです。



●南部浄化センター(安武町住吉)



城島町のマンホール
酒だる・鬼瓦・カチガラス(インガットくん)のデザインです。



●久留米市企業局上下水道部(合川町)



三潴町のマンホール
黒松・おたまじゃくし(たまらくん)のデザインです。



●赤司浄化センター(農業集落排水)(北野町稲敷)

北野町のマンホール
コスモス・耳納連山・筑後川のデザインです。



●田主丸浄化センター(田主丸町益生田)



田主丸町のマンホール
カッパ・ぶどう・柿のデザインです。

各浄化センター施設の概要

名称	中央 浄化センター	南部 浄化センター	田主丸 浄化センター
所在地	津福本町	安武町住吉	田主丸町益生田
計画処理人口	100,900人	170,400人	15,900人
計画処理区域	1,888ha	4,126ha	503ha
計画処理汚水量	53,100m ³ /日	75,400m ³ /日	6,580m ³ /日
H25処理汚水量	44,204m ³ /日	26,388m ³ /日	892m ³ /日

名称	西郷 浄化センター	赤司 浄化センター
所在地	田主丸町中尾	北野町稲敷
計画処理人口	2,230人	1,410人
計画処理区域	55ha	25ha
計画処理汚水量	736m ³ /日	406m ³ /日
H25処理汚水量	137m ³ /日	214m ³ /日

※農業集落排水事業とは、農業振興地域内の集落を対象とした浄化施設で、農村生活環境の改善と公共用水域の保全を目的としたものです。

施設見学ができますので、ぜひ一度お越しください。

施設見学

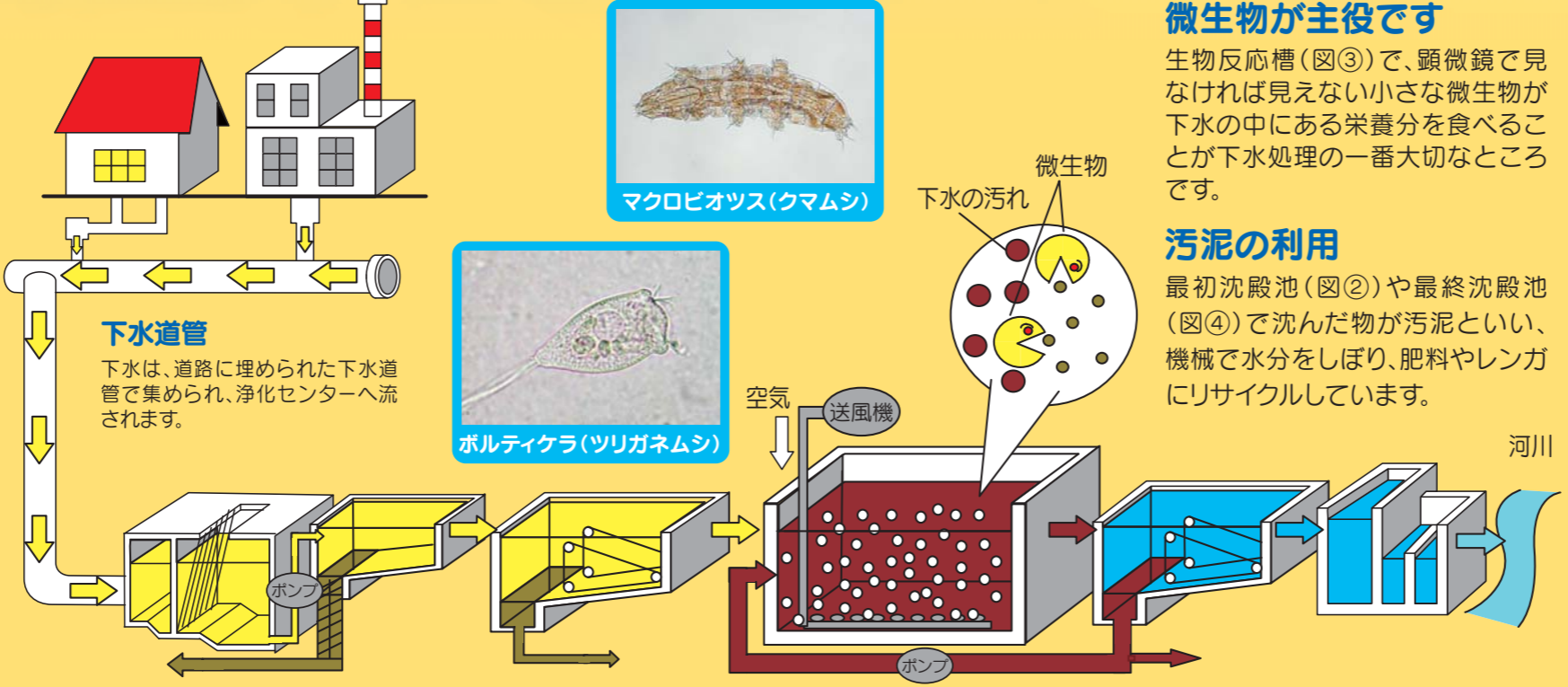
汚水をきれいにする微生物をみてみよう。

下水道 のしくみ

下水道のしごと、みんなにできること

私たちは毎日、いろいろなところでたくさんの水を使っています。生活排水や工場排水などの汚れた水を下水といいます。

浄化センターでは、汚れた水をきれいな水に戻しています。たくさんの方が下水道を利用することで環境が守られます。



- ①除塵機室・沈砂池**
浄化センターへ流れてきた下水は、ここで下水の中に混ざって入っているナイロン、布などのゴミや砂を取り除きます。
- ②最初沈殿池**
下水をゆっくり流し、少し重たい汚れを洗めて取り除き、少しきれいになります。
- ③生物反応槽**
微生物とよばれる小さな生き物がたくさん住んでいる大きな水槽に空気を入れると、微生物は下水の汚れを栄養として食べて増えていきます。
- ④最終沈殿池**
微生物がたくさんいる茶色の水をゆっくり流すと、茶色の泥が下に沈み、上のほうはきれいな水になります。
- ⑤滅菌池**
さらに、安全な水にするため、塩素という薬を入れ、消毒して川へ放流します。

微生物が主役です
生物反応槽(図③)で、顕微鏡で見なければ見えない小さな微生物が下水の中にある栄養分を食べることが下水処理の一番大切なところです。

汚泥の利用
最初沈殿池(図②)や最終沈殿池(図④)で沈んだ物が汚泥といい、機械で水分をしぼり、肥料やレンガにリサイクルしています。

習字優秀者表彰

応募総数806点から選ばれた最優秀作品です。

六年の下の役水割道
白地 正

毎年、下水道に関心と理解を深めてもらうために下水道フェアで募集しています。

平成26年度書道作品
最優秀賞
福岡教育大学附属
久留米小学校
白地 正さんの作品

